

【科目名】	心理学統計法 I		【担当教員】	山倉 辰裕
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	5-30-0020-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	yamakura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～木曜日12:40～13:30
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、「公認心理師」養成の必修科目です。 これから心理学を学ぶ上で、もっとも基礎となる科目です。 心理学統計法は科学的な視点で心理学を理解する上で重要な科目となります。 障がい等の合理的な配慮が必要な学生は教員に事前に相談してください。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・本科目では講義に加えて演習を取り入れて心理統計学の実際を学びます。種々の統計学的検定について電卓を使ってその方法を練習します。演習、試験において電卓を使用するので毎回の授業で電卓(√機能のついた電卓)を持参してください。 ・生成系AIの利用は許可しますが、出力結果をそのまま使用せず、自分自身のオリジナルな考えやアイデアを組み合わせること。個人情報や機密性の高い情報が含まれないよう注意すること。また、内容・使用方法によっては著作権を侵害する可能性があります。 				
【講義概要】				
(目的)				
<p>統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。 当該科目と学位授与方針等との関連性; A-2、R-2 本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。</p>				
(方法)				
<p>心理統計学の基礎となる記述統計について学ぶ。さらにその知識を土台として推測統計学を学ぶ。授業の中では演習の時間を設けて、講義で得た知識を実際に自ら計算しながら、知識の定着を図る。 この講義はアクティブラーニングを用います。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
統計学的な考え方を身に着けるために、記述統計や推測統計の基礎を理解する。				
【行動目標(SBO)】				
変数の種類、代表値とその使い分け、また2つの変数の関連の分析について説明ができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
授業資料を毎回配布します。				
【参考書】				
吉田(著) 本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本, 北大路書房, 2018年, ¥2,750				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 試験、小テストの成績と授業への参加態度を総合して評価する。 試験、小テストの返却は行いません。フィードバックは必要に応じて行います。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	30					20	100
評価指標	取り込む力・知識	25	15						40
	思考・推論・創造の力	25	15						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	オリエンテーション 心理学の学びに統計学が何故必要なのか	講義	心理学領域に統計学がどのように関係するのか説明できる	120
3-4	種々の変数について	講義・演習	心理学で扱われる種々の変数の違いを説明できる	120
5-6	度数分布と代表値	講義・演習	度数分とは何か、また代表値の内容を説明できる	120
7-8	代表値の使い分け	講義・演習	適切な代表値の使い分けについて説明できる	120
9-10	散布度 (分散と標準偏差)	講義・演習	分散と標準偏差が算出されるまでのプロセスを説明できる	120
11-12	共分散と相関 (1)	講義・演習	共分散と相関係数が算出されるまでのプロセスを説明できる	120
13-14	共分散と相関 (2)	講義・演習	相関係数の意味を説明できる	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120